

和痛分娩を お考えの方へ

苫小牧市立病院 産婦人科・麻酔科



和痛分娩

当院では、分娩中の陣痛を軽くする和痛分娩を行っています

（費用は通常分娩料金に10万円追加）

麻酔科医が麻酔を担当するため、完全予約制です

計画外の和痛分娩は行えません

『和痛』分娩のため、陣痛の痛みを和らげますが
完全にはなりませんのでご了承ください



和痛分娩のメリット

- 痛みが少ない

これにより分娩への恐怖心が軽減され、
次の分娩も前向きに考えられます

- 分娩後の回復が早い

分娩後の体力が温存され、スムーズに育児をスタートできます



和痛分娩のリスク

- 分娩時間の遷延

赤ちゃんが生まれるまでの時間が長くなったり、
生まれる時に吸引などの器械を使う頻度が高くなります

- 麻酔の副作用がみられることがあります

- 産まれる際に多くのスタッフや医師が携わります



外来

36週頃に採血等必要な検査を行います



麻酔科を受診し、医師から麻酔の説明を聞きます

妊婦健診時、産科医から和痛分娩時の分娩誘発方法などお話があります
スタッフからも入院の流れなどの説明があります



入院前の準備

- ネイルを外してください
- 指輪やアクセサリ一類はつけないでください
- 入院時～分娩までは化粧はせず、コンタクトも使用しないでください
- 必要な方は眼鏡をご持参ください



入院後の流れ

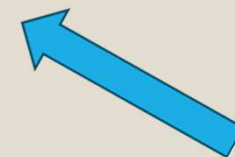
21番窓口で手続き後
東3病棟までお越しください



病衣に着替え、
胎児心拍モニターを
装着します



入院時の説明などが終了したら
そのまま翌朝まで過ごします
21時以降は、お食事はできません



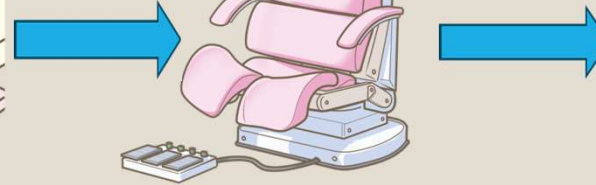
診察し、必要に応じて
処置を行います

入院翌日～生まれるまで

お茶・水・スポーツドリンクなどの水分は
当日7時30分まで可能です



LDR室で
胎児心拍モニターを
装着します



診察し、子宮の入り口を
広げる処置を行います

分娩誘発を開始します



麻酔のチューブを
いれます

麻酔の方法

。硬膜外麻酔で行います



麻酔科医が麻酔のチューブを背中に挿入します

痛み止めをしてから背中に針を刺して細いチューブをいれます

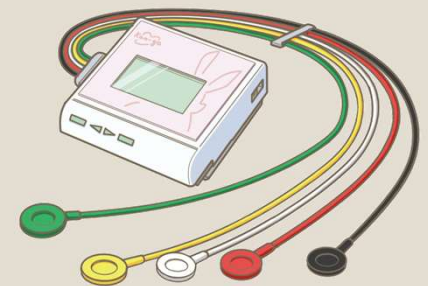
挿入するときは猫の背中のように丸くなってください

効き目を確認した後は和痛分娩開始まで留置します

麻酔中は心電図モニターを装着します

足の力が入らず、転倒する場合があるため、

初めての歩行はスタッフが付き添います



硬膜外麻酔の副作用

- 足の力が入りにくくなる
- 血圧が下がる
- 排尿感が弱くなる
- 体温が上がる
- 吐き気、かゆみができる

気になる症状がありましたら、
スタッフにお知らせください。

これらは一時的なもので、薬効がなくなれば消失します
赤ちゃんへの副作用はほとんどないと言われています



分娩中 麻酔開始まで

- 胎児心拍モニターを継続して装着します
- 硬膜外麻酔が入っている部分に異常がないか確認します
- 陣痛が強くなり、子宮口が開いてきたら硬膜外麻酔を開始します
- 痛みがあっても分娩進行状況によっては麻酔を使用せず様子を見ることがあります



- 我慢できないほどの痛みするとき
- 子宮口がある程度開いており
お産になりそうなとき
- 経産婦さんでお産の進行が早そうなとき
に麻酔を開始します

分娩中 麻酔開始後

- 心電図モニターを装着し、定期的に血圧を測ります
- 転倒の危険があるため、分娩台の上で過ごします
- トイレの際は管で尿をとることがあります
- ずっと同じ姿勢は避けてください



- 麻酔中も分娩進行を妨げず、いきめるように痛みはある程度残します



想像できる最大の痛みを10、
痛みがないときを0とするなら
いくつになるかで確認をします
痛みが2～3程度になるよう調整します

こんなときはナースコール

- 足が動きにくい
- 吐き気がする
- 何か出てきた感じがする
- おしりが押される感じ、便をしたい感じ、いきみたい感じがある
- 痛みが急に出来た



すぐにナースコールでお知らせください

産後

- 分娩終了後、麻酔の管を抜きます
- 産後2時間はLDR室で体調を確認します
- 体調が変化しやすい時期なので、ベッド上で安静にしてください
- 体調が問題なければスタッフ付き添いのもと、トイレへ歩きます
- 体調、歩行に問題がなければ病室へ移動します



和痛分娩ができないとき



- 予定入院前に陣痛が始まった場合
残念ですが実施できません
- 入院して麻酔のチューブが入った後、夜間に陣痛が始まった場合
麻酔科医師が直接調整できないため、実施できないことがあります

最後に

和痛分娩をするかどうか、たくさん悩まれると思います

もし和痛分娩が実施できなかったとしても、バースプランに沿ったお産となるよう支援させていただきます

何か心配事や不安がありましたら、いつでもご相談ください

